安芸・香美境 畑山の稜線

安芸平野から北を見渡めるとラクダのこぶのような山容の"秀峰"五位ヶ森。
安芸市畑山と香美市物部の境となるこの稜線を歩くと南に青い太平洋。
北面は優雅でやさしいブナ林がつつんでいる。
そして地図から消えていた集落の跡には人々の営みの痕跡が色濃く漂っている。

中津尾の歴史は古く源平合戦で平重盛の弟平資盛が落ち延びてきた伝説も残る。
長宮我部地検帳には「中ツヲノ村」と記され1952年には14世帯72人が暮らしていたという。
1960～66年には営林署の事業所があり人口は123人まで増え、分校も開かれていた。
しかし、戦後外材輸入や石油へのエネルギー転換により、山村の仕事は激減し急激に人口が流出した。
2016年に住む人がいなくなり「消滅」した。

檜谷事業所は モミ・ツガ・ヒノキ などの天然木を生産していた。
なかでもヒノキは大径木がすごかった!!

檜谷山には木地師が住んでいて、ヒノキで木製品を作っていた。
木地師作の盆ともらった人もいる。

H16年まで安芸営林署の管轄だった。(H16.4.1~S33より檜谷)谷事業所で木材生産をしていた。

檜谷山

堂平

中津尾

畑山林道

!こちら側へはうかつに入ると遭難の危険。場悪、複雑。

ずっと倒木が道をふさぐ

南国方面 香長平野みえる

鹿の巣

白明神

安芸の秀峰 五位ヶ森 1185m

柿ヶ久保

柿ヶ久保は平家小松伝四郎を祖として開かれた。
S35頃には8戸30人ほどの人々がくらしていた。
S45頃 最後の一軒が山をおりて消滅する。
小松一族の氏神を祀る神社には10月末1日1月末2の日旺日に縁者が集まり神事を執り行なっている。

家の跡

柿ヶ久保 日

なつかしのウォーターグレーン

花ノ久保橋

大きいのが小さい弟をつれて学校へ通っていた。

柿ヶ久保から畑山の学校まで片道1時間あまり。
山道をかけおりて一つ橋をわたって通っていた。
帰りには集落入口でおばちゃんがお菓子を持ってまってくれていた。
郵便さんに手紙をたのまれることもあった。

2017.10.1(日)柿ヶ久保神社で小松さん、小原さん5名の出身者の方々にくわしくお会いして、貴重なお話しとお願ましここに記す。

岩井谷川(祝い谷)

旧 発電所

畑山川にかかっていた吊り橋はほとんど残ってない。

大野の「みやの森」手前に乳の神様として「いちばば様」と祀っている。お参りしたら乳が出るという。

大野川

大野橋

昭和橋

小川名

畑山川

注)途開地で道が途だえる。作業道をたどり切り通しから上ると尾根に出ることができる。

若いヒメシャラ林

中ピーク

スギ林

おだやかな尾根

リョウブ

シャクナゲ

明神

人工林の中にここだけが鎮守の森に守られている。
天狗が住むという伝説。

ツルシキミ

土杉

ヒメシャラ

安芸平野からほぼ真北によく見える。

三嶺～天狗塚への稜線

隠れた名峰

みごとなブナ林

杉ノ谷山 1367m

平坦な天然林の森

南側

北側

シロダモが多い

小屋跡か?

一升ビン散乱

ブナ林。

高知平野見える

宇筒舞山

石摺木山

1294m

民有林

リョウブはシカにことごとく皮を食べられている。

ブナ、ヒメシャラ林 谷が深い

草原

三嶺～天狗塚みえる

太平洋～安芸平野みえる

安芸川と伊尾木川の分水嶺。
大字 畑山と古井の境。
合併前の畑山村と東川村との村境。

この一帯 国有林

作業道

展望広場
横荒～別役の山々が一望。

作業道と接する物部 大きなブナの木

物部川水系と安芸川水系の分水嶺

深い深い山また山の世界。
1300mクラスの山々がとり囲む。

作業道を歩くことができる。
甚吉森～横荒山～安芸平野～ぐるっと大平洋までよく見える。
(楽なようで林道を歩くのはこたえる。)

張川林道

伊尾木川 桑ノ木橋へ

宝蔵峠

宇佐神社

石垣の住居跡

中ノ川

中ノ川橋

張川

深谷

中ノ川にも営林署の事業所があった

張川林道のカモシカ

柚子畑の中に学校の建物

正藤

中ノ川から正藤の学校まで山をこえて1時間

仙谷林道

別役往還

仙谷山 1040m

日本一名前の長い山
丸場宝加勝下宝加勝山

石垣

人工林や柚子畑となっている石垣が積まれた畑跡がいたる所にある。
何百年もの間、そこに住む人々が営々と石を積み、土を耕し、汗を流していた暮らしを想像する。
その暮らしは想像以上に過酷だったことだろう。
びくともしない石垣。
1000年で生きてきた人々の営みは、とてつもなく尊い。

超ド級

「土佐の名木・古木」にも収録されていない隠れた名木。

宇佐神社

このわずかな範囲の中だけでも中ノ川、正藤、柿ヶ久保、中津尾、大野の集落から住民がいなくなり消滅している。
これらの集落は中世から近代にかけて木材や炭などの資源の生産地として栄えてきた。(堂平も住民はいなくなったしかしここ数十年で日本の文化や歴史の大転換期となり、何百年と続く集落の営みがなくなり、人口ゼロとなり、集落が消滅している。

限界集落のまわりには、すでに消滅して地図から名前の消えた集落がある。
仕事や利便性を求めて人は川下へ、街へと流れ出て行き、都市が栄えている。
都市のまわりにある限界集落が消滅してしまう時都市もまた限界集落化していくことだろう。
大小の差はあるが周辺の集落こそ最も大切な地域の「石垣」だと思う。